

原発から再生可能

エネルギーへの転換を

―野田内閣は国民の声を聞け―

「7・16さようなら原発集会」 ―代々木公園に17万人

電前に1000人あまりの人たちが集まり、29日には20万人が国会を包囲し、なくせ原発の訴えがされました。

こうした国民の声が聞こえるなら、野田政権は再稼働を中止し、原発からの撤退を今こそ決断すべきです。

石黒市議作成のプラカードを手にデモに参加する石黒、杉浦市議↓



原発をせなくせ!

大江健三郎さん、瀬戸内寂聴さんから9人が呼びかけたこの集会に、党市議団からは杉浦、黄野瀬、石黒市議が参加しました。会場にはベビーカーを押したご夫婦から高齢者の方まで、それぞれの思いを手作りのプラカードやゼッケンに託し、「原発いらない」の声

「子どもの未来を守れ!」全国各地でも集会やデモなど行動がもたれました。毎週金曜日夜に首相官邸前で開かれる「再稼働反対」のツイッター・デモに集まる人の数は回を重ねるごとに増えています。7月27日には大津市でもとの呼びかけに、関

券という形で還元するなど、地域活性化の取り組みともリンクさせて進めています。



↑猛暑の中、会場を埋めつくす人・人・人。

「一堂に集まりました
デモ行進
では誰がリーダーというわけでもなく、自然に発せられる声に参加者が応えます。
「原発再稼働やめよ」

再生可能エネルギー普及に 大津市も積極的取り組みを

国民の多くは原発から脱却し、再生可能エネルギーへの転換を求めています。この7月から「再生可能エネルギー固定買い取り法」がスタートしましたが、この制度を生かしていけ

るかどうかは国と自治体、住民の動きにかかっています。
野洲市や東近江市などでは、自治体関わって市民出資による太陽光発電所を設置。売電による収益を地域商品

大津市ではこれまで、太陽光発電パネル設置への補助事業に取り組んで来ていますが、今後この事業を拡充するとともに、地域の特性を生かした再生可能エネルギー活用の可能性を調査し、地域経済活性化と結んで積極的に進めていくべきだと考えます。

いじめのない学校・大津市をめざして

日本共産党市議団が見解を発表

(見解の要約は以下)

昨年10月の市内中学生の自殺事件については、その背景に深刻ないじめがあったことが明らかになりました。いじめと自殺との関連が強く疑われる状況であったにもかかわらず、調査を打ち切った学校と教育委員会の対応に問題があったことは明らかです。議会の4回にわたる常任委員会の調査でも真相究明に至らなかったことから検証が必要です。

いじめは深刻な人権侵害であり、被害者の心に一生残る傷を与えるものです。学校や関係者がいじめの深刻さについて認識を深めるとともに、これまでの対応について徹底的な検討を行う必要があります。

党市議団は真相の究明に努めるとともに、父母や関係者、市民の皆さんと力を合わせ、大津市でいじめをなくしていくために全力を尽くし、下記項目の実現に努めます。

- ①学校や地域からいじめや暴力をなくすために、ともに学び考え合う取り組みを進める。
- ②相談・対応の体制整備とともに、少人数学級、養護教諭の複数配置など教育条件の整備を進める。
- ③国連子どもの権利委員会が指摘する「過度に競争的な教育制度のもとで、子どもの発達が阻害されている」現状を改めるため、教育と社会のあり方を市民的に検討する場を設けることを求める。
- ④「いじめ防止条例」の制定に向けた市議会政策検討会議の協議では、条例が現実にも有効なものとなるよう、子どもや関係者の意見を積極的に反映させる。

見解の全文は、ホームページに掲載しています。
<http://www.otsu-jcp.net/>

市民生活を支える施設運営を

大津市の公共施設の運営の実態や課題について、党市議団では、現地を訪れて視察・調査をおこなっています。今回は、7月17日と24日に、市内8箇所の施設を訪問。業務の内容、施設改善の課題などの説明を受けました。

東部子ども療育センター

(菅野浦)

「東部にも子どもたちの発達支援の場を」と待ち望まれた子ども療育センターが、昨年開設されました。

子どもを支えるための児童館や公立保育園の建設などが望まれます。

(石黒かづ子)



今後、医療的ケアが必要な子どもも通える施設整備や、地域で子

→東部療育センター施設内

比良げんき村

(北小松)

比良げんき村は屋外遊具やキャンプ場の他に、本格的なプラネタリウム、天体望遠鏡などを備えた体験施設です。

現在、これらの設備の更新が予定されており、加えて同敷地内にある県立の宿泊施設、比良山岳センターも耐震・設備工事終了後、来年度からは市に譲渡されることとなることから、さらなる利活用が期待されます。

(岸本典子)

北部クリーンセンター

(伊香立)

北部クリーンセンターには、あらゆる種類のゴミが集められ、焼却、資源化のための最終処理が、かなりの手作業によって日々行われています。

限りある資源を大切に、そしてさせないためにも。

(佐々木松一)



→手選別されるプラスチックごみ

木戸支所・木戸老人福祉センター・にじっこ・北消防志賀分署(木戸)



現在、旧志賀町庁舎は、4つの施設が共同利用しています。

また周辺の自然環境も豊かで、子どもと高齢者の施設が併設されていることを生かし、市民の交流の機会を増やしていくような連携も検討されればと考えます。

(杉浦智子)

大津市公設 地方卸売市場

(瀬田大江町)



食の安全、安心のために市場の機能は重要ですが、大型量販店の進出などにより運営は厳しさを増しています。

昨年から朝市を企画し市民に向けてアピール、市場の活性化にも取り組まれています。施設の整備は計画的におこなわれており、今年度は野菜くずなどの生ごみ堆肥化施設整備が課題にあがっていますが、冷凍庫・冷蔵庫も20年以上経過するなど、施設・設備の改善は大きな課題です。

(黄野瀬明子)

大津北消防署

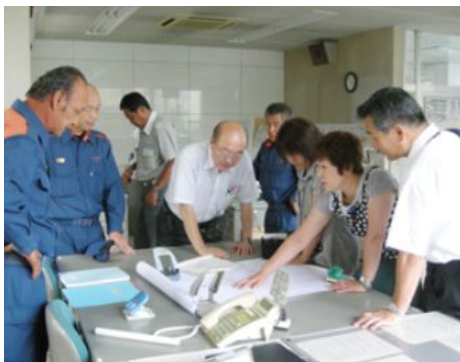
(真野)



耐震性や老朽化、救急隊の増設などによる狭隘化など問題点を抱えている北消防署の建てかえ計画が進んでいます。

今年度に実施設計を終え、来年度から本署棟、車両棟、訓練施設などが順次建てかえられる予定。東日本大震災で燃料が不足して出動が困難になった教訓から、構内に燃料タンクも設置される予定

消防署の建てかえの説明を受ける党市議団



教育と福祉をつなぐ専門職配置を

いじめ防止条例へ議会での学習会

市内中学校でのいじめ・自殺事件を受け、市議会では「いじめ防止条例(仮)」の制定を検討することとなり、7月30日、政策検討会議でいじめ問題についての学習会を行いました。

県内学校のカウンセラー、スーパバイザーなども務めておられる立命館大学教授の野田正人先生が、「いじめを考える」と題して講演。その後、質疑応答を行いました。

野田先生は、いじめの発見の難しさを指摘し、「被害者が安心して話せる体制の整備。暴力や不正を排除する学校での文化づくり。」

(杉浦智子)